

群馬県における倉庫業の動向

一般財団法人群馬経済研究所
主席研究員 伊勢 和広

～要 約～

1. 群馬県内の倉庫業者が所有する倉庫の大部分は、主に常温で物品を保管する普通営業倉庫である。保管品目では、食料工業品、石油・化学製品、雑工業品等が上位にあるが、なかでも「飲料」の保管シェアが特に大きい。
2. 群馬経済研究所が県内倉庫業者に行ったアンケート調査によると、年間在庫量と年間売上高はともに堅調に推移している一方で、「労働力・人材不足」、「設備の老朽化」が営業上の課題として挙げられている。
3. 課題解決のために現在取り組んでいることでは、「新規顧客の開拓」、「人材募集強化」、「同業者との連携」が多い。また、今後重要になる項目としては、「人材募集強化」と「人材育成」が上位となっている。
4. IT等の導入状況を見ると、過半の企業において「バーコードによる保管・管理システムの導入」は済んでいるものの、3分の1の企業は「特に導入・活用していない」としており、まだまだ改善する余地がある。
5. こうしたなか、倉庫内の荷物移動作業を自動フォークリフトが担う「省人物流管理システム」の導入に取り組むなど、ITを高度に活用して業務効率化を目指す企業が県内でも現れている。
6. 経済環境に恵まれ、現状では県内倉庫業の業況は比較的好調に推移しているものの、「人手不足」が深刻である。IT等の積極的活用は「人手不足」という課題を克服するカギとなる可能性がある。経営状況に比較的余裕があるこのタイミングこそ、倉庫業務遂行に必要な労働力そのものを減らせるようなIT投資を行うチャンスである。

キーワード 倉庫 運輸 物流 ロジスティクス